

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭60-45437

⑬ Int. Cl.⁴

B 60 N 1/06
A 47 C 7/14

識別記号

庁内整理番号

A-8008-3B
7309-3B

⑭ 公開 昭和60年(1985)3月11日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 車両用シート

⑯ 特 願 昭58-152287

⑰ 出 願 昭58(1983)8月19日

⑱ 発 明 者 八 田 進 昭島市松原町3丁目2番12号 立川スプリング株式会社内
⑲ 発 明 者 古 川 敏 夫 昭島市松原町3丁目2番12号 立川スプリング株式会社内
⑳ 出 願 人 立川スプリング株式会 昭島市松原町3丁目2番12号
社
㉑ 代 理 人 弁理士 早川 政名 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

車両用シート

2. 特許請求の範囲

尻部支持部とサイ支持部とを発泡材で一体成形してサイ支持部にサイサポート装置を有する車両用シートにおいて、前記尻部支持部内に、その底部近くに底面に沿って固定下枠線を、前記サイ支持部内にその底部近くにその底面に沿って可動下枠線を夫々埋設し、両下枠線との間に折曲部を設けると共に固定下枠線をシートフレームに、可動下枠線をサイサポート装置の可動フレームとに夫々固定してなることを特徴とする車両用シート。

3. 発明の詳細な説明

本発明は車両用(自動車用)シート、詳しく尻部支持部とサイ支持部とを一体発泡してサイ支持部にサイサポート装置を設けた車両用シートに関するものである。

従来、この種のシートにおける尻部支持部と

サイ支持部とを一体発泡したクッション部材内には、発泡材の剛性、保形性を図るために枠線が埋設されているが、この枠線はクッション部材の尻部支持部とサイ支持部間に沿って連続したものである。従ってサイ支持部に設けたサイサポート装置を有するシートにおいては、クッション部材内に埋設した枠線の剛性によってサイ支持部が簡単に上昇しない不具合があった。斯る不具合を除去するものとして、サイ支持部を尻部支持部に対して独立状に形成し、そのサイ支持部にサイサポート装置を設けたものがあるが、これは、クッション材の成形、組立などが複雑になり、工数を要し低価格で提供できない欠陥がある。

そこで、本発明はこれらの不具合を除去することを目的とするものである。

以上の目的を達成するための本発明の基本的構成は、サイ支持部と尻部支持部とを一体発泡し、夫々の支持部に、別個の下枠線を独立状に埋設して、サイ支持部がサイサポート装置によ

って、スムーズに昇降し得るようにしたものである。

以下、本発明の一実施例を図面に基いて説明する。

図面はベンチ形のシートクッションを示し、シートフレーム(10)の左右前部に独立状に二ヶのサイサポート装置(a)を備え、その左右のサイサポート装置(a)には夫々独立状のサイ支持部(10)(10')が載置されており、この両サイ支持部(10)(10')は尻部支持部(20)(20')と一体発泡され、左右の尻部支持部(20)(20')は一体又は別体に形成されている。そして左右の尻部支持部(20)(20')は一体成形した枠状のシートフレーム(1)に載置され、サイ支持部(10)(10')はシートフレーム(1)の前部にボルト(2)で上下方向に回動自在に枢着した可動フレーム(3)上に載置されている。

以上の尻部支持部(10)とサイ支持部(20)はポリウレタンフォームで一体にモールド加工し

たものであって、この加工の際、夫々の内部に固定下枠線(11)、可動下枠線(21)を埋設したものである。

これらの下枠線(11)(21)は、両支持部(10)(20)が所定の剛性等を有するように線材を溶接により第2図に示すが如く翻立たたものであり、その適宜個所に固定片(11a)(21a)(21a')が固定されている。各固定片(11a)…には締結ボルト(12)(22)が螺合する螺孔が設けてある。この下枠線(11)(21)は夫々尻部支持部(10)、サイ支持部(20)の底部近くに底面に沿って埋設され、その各固定片(11a)は、外部に露出するか、若しくは外部から視覚される程度の深さに埋設してあり、この固定片(11a)…を介してシートフレーム(1)、可動フレーム(3)に両支持部(10)(20)が締結ボルト(12)(22)によって固定される。

以上の固定下枠線(11)と可動下枠線(21)とは所定間隔を置いて埋設され、この両下枠線

- 3 -

(11)(21)との間を折曲部(イ)とする。サイ支持部(20)はこの折曲部(イ)よりサイサポート装置(a)によって昇降する。この折曲部(イ)を形成する固定下枠線(11)と可動下枠線(21)との間隔は、該部における発泡材の上下方向の厚さ、サイ支持部(20)の上昇角度等によって調節される。

サイサポート装置(a)は従来周知の構造のものでも良いが、図示するものは可動フレーム(3)に設けた引掛部(31)を引き上げることにより、可動フレーム(3)が上昇し、その上昇によりロック片(32)が回動し、その適宜位置のロック片(32)のロック溝にストッパ(33)が係合して可動フレーム(3)を所定位置に保持する構造である。そして、可動フレーム(3)の引掛部(31)の通口より突出せるロック解除用のレバー(34)の操作部を引き上げるとストッパ(33)が押動されてロック状態が解除されると共に可動フレーム(3)に架設した回転軸(35)がリターンズpringにより回転してス

- 5 -

- 4 -

トッパ(33)が、ロック片(32)上段位置(第4図)に係合しロック状態になるものである。

以上のサイサポート装置(a)によって、サイ支持部(20)は折曲部(イ)を回動中心として昇降する。

図中(4)は両支持部(10)(20)を被覆する表皮部材で、その端末はシートフレーム(1)可動フレーム(3)に固定されている。

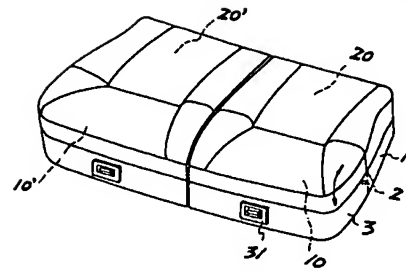
本発明は叙上の如くの構造であるから以下の効果を有する。

- ① 固定下枠線と可動下枠線との間に折曲部が設けてあるため、この折曲部によって、可動下枠線を固定したサイサポート装置の昇降操作力が良好になる。
- ② 両下枠線は尻部支持部とサイ支持部とを一体成形する際に同時に埋設することができるためシートの成形が簡単で低原価で提供できる。
- ③ 両下枠線は両支持部の底面近くに埋設されているため、両支持部を載置する平板状フレ

ームなどを設ける必要がない。

4. 図面の簡単な説明

第1図は斜視図、第2図は固定下枠線、可動下枠線を示す斜視図、第3図は縦断面図、第4図はサイ支持部を上昇させた状態の縦断面図である。図中(10)は尻部支持部、(20)はサイ支持部、(11)は固定下枠線、(21)は可動下枠線、(イ)は折曲部、(a)はサイサポート装置を夫々示す。

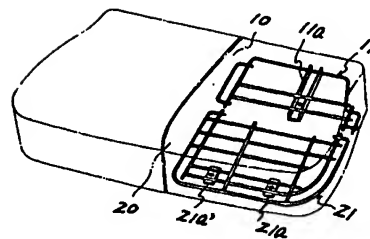


特 許 出 願 人 立川スプリング株式会社

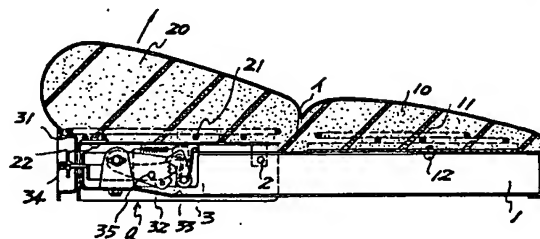
代 理 人 早 川 政 名

代 理 人 早 川 誠

第 2 図



第 3 図



第 4 図

